

「～てナンボ」の構文パターンと意味機能

井上直美

本研究は、「～てナンボ」という機能語について、コーパスによる実例調査を行い、探索型アプローチでその特徴を分析するものである。「～てナンボ」は方言ではあるが、「プロは勝ってナンボですから」のように、テレビなどでは方言話者以外の使用もたびたび観察される。現状、一般の辞書類、参考書類に「～てナンボ」に関する詳しい記述がなく、ニア・ネイティブレベルを目指す日本語学習者にとって、気になる表現になっている。そういった日本語学習者のための記述を視野に、本研究は「～てナンボ」の構文パターンおよび意味機能を分析する。

用例の収集には、『筑波ウェブコーパス』を使用し、514 の実例を得た（「何ぼ」で検索し（頻度 1137）、手作業で「てナンボ」を抽出）。調査の結果、「～てナンボ」は、「なんぼ・ナンボ・何ぼ」のうち、カタカナ表記で用いられる割合が7割を超えること、使用される形式は「～てナンボのN」という名詞修飾の形が最多で2割を占めること、また、その場合のNは「世界（～てナンボの世界）」が突出して多いという特徴が明らかになった。

以上の調査結果および用例分析を踏まえた本研究の主張は、以下の3点である。①「～てナンボ」のスキーマ的意味は、「～ことによって価値が発生する」であり、このスキーマ的意味から反語的意味や拡大した意味が生じる。②「Xは～てナンボ」の構文パターンは、A型（副詞型：この仕事は1時間働いてナンボ）とB型（機能語型：この仕事は信頼されてナンボ）に大別でき、名詞句Xの有無、格関係の有無によりさらに、B1a型（意義型：営業マンは商品売ってナンボ）、B1b型（重視型：恋愛はアタックしてナンボ）、B2型（主義型：目立ってナンボ！）に分類できる。③文体が方言主体の用例は3.9%に留まっており、それに加え、カタカナ表記および括弧が付加されやすいという表記の特徴からは、「～てナンボ」は、「～ていくら」のように言い換えられない機能語であるため、方言話者がそのまま使用することで広まり、方言話者以外にも取り入れられつつあることが推察される。